

昭和49年7月 七夕豪雨

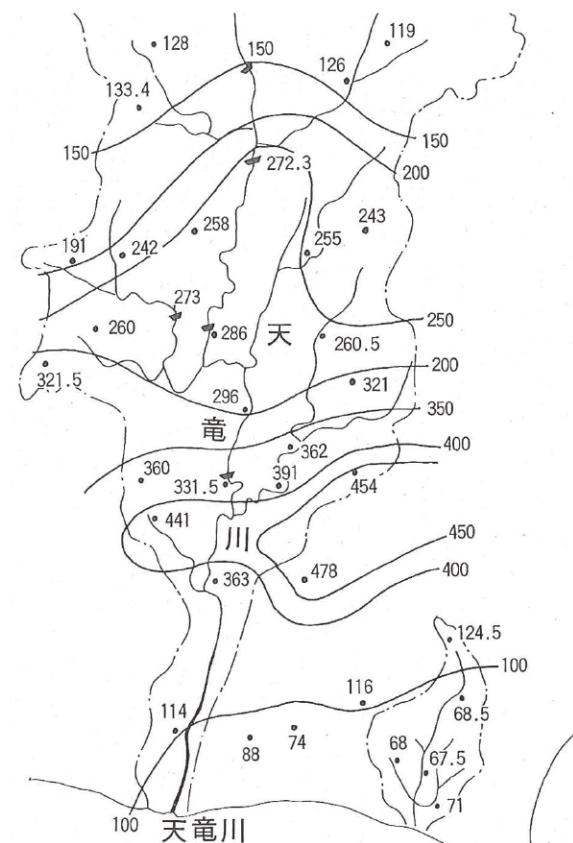
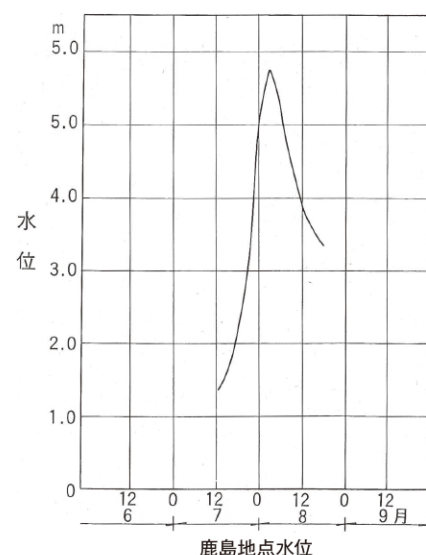
昭和49年(1974年)7月7日

昭和49年7月7日に発生した豪雨は、「七夕豪雨」と呼ばれ、静岡市を中心とする範囲で被害が発生しました。天竜川流域においても甚大な被害が発生しました。

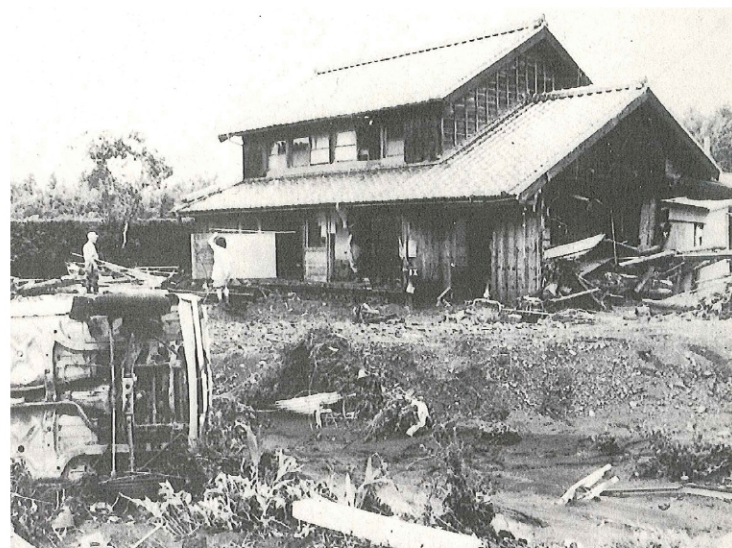
天竜川流域の支川二俣川や一雲済川流域では、堤防の決壊、橋梁が流出するなどの大きな被害が発生しました。

台風8号により、静岡市では7月7日から8日にかけての24時間雨量が500mmを超えるという、静岡地方気象台創立以来の猛烈な豪雨となりました。

この豪雨による被害は、静岡市を中心とする範囲で多く発生し、天竜川流域でも甚大な被害が発生しました。この災害で浜松市街で4人、天竜区で2人、北区および周智郡森町でそれぞれ1人の死者が出たほか、下流域の各地で冠水や崖崩れなどが多く発生しました。



等雨量線図 昭和49年7月8日～9日



二俣川沿川の家屋被害状況(浜松市天竜区二俣町)



二俣川沿川の被害状況(浜松市天竜区二俣町)



一雲済川の堤防決壊、掛下橋流出(磐田市掛下)



冠水する浜松市街地(浜松市東区)



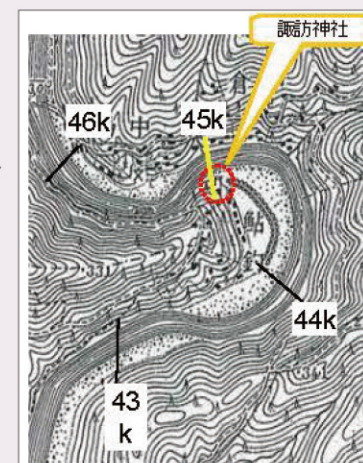
冠水する浜松市街地(浜松市東区)

—— 天竜川における歴史的洪水 ——

天竜川下流部における、大規模な浸水被害の記録がある洪水として、宝永2年(1705年)洪水の記録があります。

文献によると、「天竜川満水には、社中水の高さは1丈8尺(約5.4m)ほどになり、本社大明神、天神、天王の三社ともに流出、庄屋又兵衛ほか2軒も流された。(天竜市史)」、「二俣町にては家屋の屋根上に浸水せるものあり。光明村船明、堤防決潰せり。(磐田郡史)」とあります。

この宝永2年洪水の鮎釣諏訪神社における浸水深をもとに、流量を推算すると、鹿島地点においては、現在の河川整備基本方針における基本高水のピーク流量の約1.2~1.4倍となる、約21,900~26,800m³/sもの洪水が発生したと推測されます。



国土交通省 社会資本審議会河川分科会 河川整備基本方針小委員会資料より